

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2021年7月1日 214号  
世界平和地球村の建設と自然環境の保護



## 第9回パクー稚魚放流式 2021年5月21日 フエルテ・オリンポ市

### 青年が中心となり、希望を与えた放流式

岩澤代表の報告より.. 5月21日、晴天下の州都オリンポ

市において、私たち南北米福地開発財団は、国立アスンシオン大学獣医学部水産学科と世界平和統一家庭連合オリンボ教会の協力を得て、パクー稚魚3000匹をパラグアイ川から採つた親魚に産ませた稚魚である。今季レダでは合計12万匹をパラグアイ川へ放流することを予定している。

レダの養殖事業は2010年に始まった。アスンシオン大学水産学科のマグノ・バレット教授から教示を受け、2012年12月、アルトパラグアイ州では初めて人工孵化に成功した。そして近年の乱獲等によるパラグアイ川のパクーの激減に対処するため、2013年から稚魚の放流を開始し、以来8年間継続して放流してきた。

去る1月、パクー養殖の総責任者、滝川哲盤君から今年はレダ以外の地で放流式典を行う事を提案された。これに佐野、中井両理事も同意し、州都のオリンポ市で放流を行なう事を決定した。現在コロナ禍で、パラグアイ全国で多くの死亡者が出ていた事を考慮し、大きな式典は控え、オリンポ市を中心に州レベルで行う事も決めた。

最大の課題は、どのようにレダから100km離れたオリンポ市まで稚魚を安全に運ぶかであった。放流式の前日、稚魚に負担をかけないよう注意しつつ、朝の8時から稚魚の水揚げを始め、2隻のボート「Góp Gó」に1個ずつ載せた100リットルの水槽に積み替えた。

稚魚の平均サイズが約15cm、体重67gという事より、各水槽には1500匹収容可能とマグノ教授が判断。2隻で計3000匹を運ぶことを決めた。稚魚が極めて密な状態にあるので常時ポンプで水中に空気を送りながら、4時間走り、午後2時オリンポに着いた。

現地で大きな6000リットルの水槽を準備し、300匹の稚魚をこれに移した。マグノ教授を中心滝川君、川久保君、パブロ君ほか、従業員たちも非常に手際よく働いたことによつて、一匹も死ぬことなく、稚魚は元気に新しい水槽の中を泳いでいた。その頃はオリンポの人々が大勢集まり、興味津々にパクーの稚魚を見ていた。

前もつて稚魚の準備を進めるとともに、佐野氏とオリンボの家庭連合アリストイデス・ロンダン教会長は州と市の要人たちを訪問。また式典の2日前からアスンシオン大学の教授と佐野氏が高校生および漁業組合関係者に放流の意義、環境保全の大切さなどを講義した。(次面に続く)

**パクー稚魚放流式**（1面より続く） 放流を行う川岸

**パクー稚魚放流式**（1面より続く） 放流を行う川岸は我々の敷地であるにも拘らず、かなりのごみが投棄され、灌木などで覆われていた。これを式の前日、



川岸のゴミ撤去を完了して。5月20日

放流稚魚の準備をする滝川哲盤君

岸川も披露された。コロナ禍で定したが、市会議長、州の検事長と判事、州警察署長、海軍責任者、高等学校の校長、教師、また多くの高校生が参加し、会場は直ぐ一杯になつた。皆熱心に放流の意義について耳を傾けていた。

第1部が終わり、参加者らは歩いて5分ほどの桟橋に向かつた。そこではマグノ教授、レダの青年、

スタッフらが大水槽から稚魚をすくい上げ、ビニール袋に入れ、酸素を注入して放流の準備をしていた。要人たちから放流を始めると、多くの青年、そして地域の人々も加わり、3000匹の稚魚をすべて放流することができた。参加者の多くは今まで魚を獲ることは熱心にしてきたが、人生で初めて多くの稚魚を放流し、大変喜んでいる様子だった。

放流式典を無事に終え、特に印象に残った二点を特記したい。一つは何といっても特に日本の青年た



放流式曲で挨拶する 現地法人代表の岩澤春比古氏 5月21日

持つて行つた。また放流式典の第1部は家庭連合のパラグアイ青年がしつかりと務め、会場全体をよく盛り上げ、まとめた。さらに式典全体を通して環境保全そしてパクー稚魚の放流に関心を持ったオリン

スタッフらが大水槽から稚魚をすくい上げ、ビニール袋に入れ、酸素を注入して放流の準備をしていた。要人たちから放流を始めると、多くの青年、そして地域の人々も加わり、3000匹の稚魚をすべて放流することができた。参加者の多くは今まで魚を獲ることは熱心にしてきたが、人生で初めて多くの稚魚を放流し、大変喜んでいる様子だった。

放流式典を無事に終え、特に印象に残った二点を挙げたい。一つは町によって手に入る青年二



A group of approximately 20 young people, mostly of diverse ethnicities, are gathered outdoors in a grassy area with trees in the background. They are all wearing face masks. Some are standing in the back row, while others are kneeling or sitting in the front. They are smiling and some are making peace signs or other hand gestures. The overall atmosphere is one of a group photo at an event.

A group of approximately ten people are standing on a muddy bank of a wide river. In the center, a man wearing a white lab coat over a patterned shirt and a white cap is kneeling. Behind him, several men are standing, some with their arms around each other. They are all wearing face masks. The background shows the calm water of the river and a dense line of trees along the opposite bank. A small portion of a vehicle is visible on the far left edge of the frame.

5月21日朝にテレビで全国放送し、内容を報道した。

今まで以上に我らに関心を持ち、立派な総裁夫妻を好意的に受け入れ、我々の今後の活動に期待している。今回パラグアイの有力紙 a b c が式典の準備段階から

放流式に参加した若者たち。5月21日  
アスンシオン大学教授とレダの  
放流式に参加した若者たち。5月21日  
アスンシオン大学教授とレダの

放流式に参加した若者たち。5月21日  
アスンシオン大学教授とレダの

放流式に参加した若者たち。5月21日  
アスンシオン大学教授とレダの



## レダ基地スナップ



稚魚12,000匹を別の池に移動。5月29日



大きめの稚魚を洗う。6月5日



パクーの稚魚2,500匹を移動する作業。6月5日



レティロにて子豚を持つ源田さん。



アルマジロを持つ荒巻さん。



7月の奉仕活動用のベンチ。絵と文字は女性たちで。6月1日



本田さんが釣ったパクー。6月10日



パクーの調理法を学ぶ本田さん(左)とヌワビシさん。



マンディオカ苗を植える大元氏。6月9日

### 一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001  
神奈川県川崎市高津区  
溝口3-11-15  
岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821  
FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行  
記号10280 番号61349751  
一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール: office@asd-nsa.com  
ホームページ: <https://asd-nsa.com>  
Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>

### 会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



<https://asd-nsa.com/nk/>

入会申し込みは、  
左のQRコードから、  
グーグルフォームで  
も行えます。  
パソコンでは、下  
記のURLにアセ  
スしてください。

### レダ・プロジェクト紹介用 パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネット  
でも入手いただけます。

スマホなどの  
端末で、また  
は印刷してク  
リアファイルに  
入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>